

# 1

## 最初に知っておきたいこと<人間・犬・猫の違い>

### 1-1 必要な栄養素の違い

- 私たち人間と同じように、犬や猫は、**脂肪、たん白質、炭水化物\***、ミネラル、ビタミンを食べ物から摂り入れなければ健康に生きることができません。
- しかし、人間と犬と猫では、必要な栄養素の割合に大きな違いがあります。

\*脂肪、たん白質、炭水化物を三大栄養素と呼びます。

#### 犬は雑食



犬は、長い間人間と共同生活していく中で雑食性が進み、たん白質の必要量は人間より多いものの、最適な三大栄養素の割合は人間と全般的によく似ています。

#### 猫は肉食

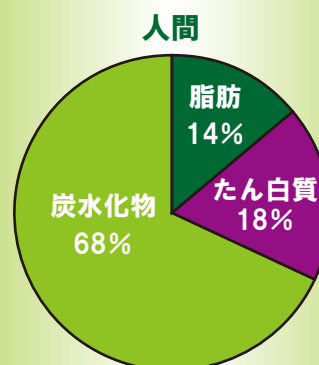
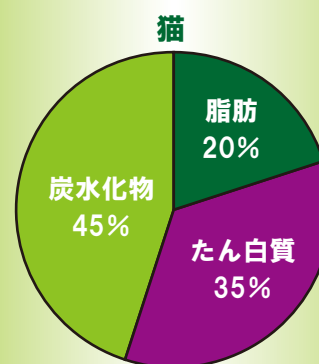
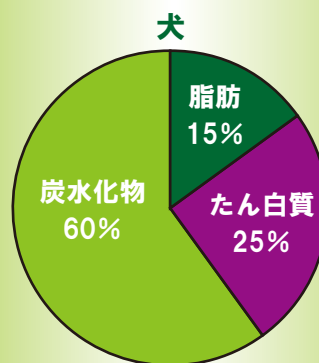


猫は、人間と暮らし続けていても肉食性を保ち続けたため、人間や犬に比べてたん白質が多く必要です。また、人間や犬では、生理的に必要な**タウリン**や、**ビタミンA**などを体内で作ることができるのに対して、猫では作ることができないため、タウリンを十分に含んだフードを与える必要があります。

#### memo

#### 猫のタウリン欠乏症

タウリンが不足すると、猫では、眼の障害（網膜萎縮）や、心臓の疾患（拡張型心筋症）などを引き起こすことがあります。手作りフードを利用する場合などでは注意が必要です。タウリンは、魚介類や動物の内臓などに多く含まれています。

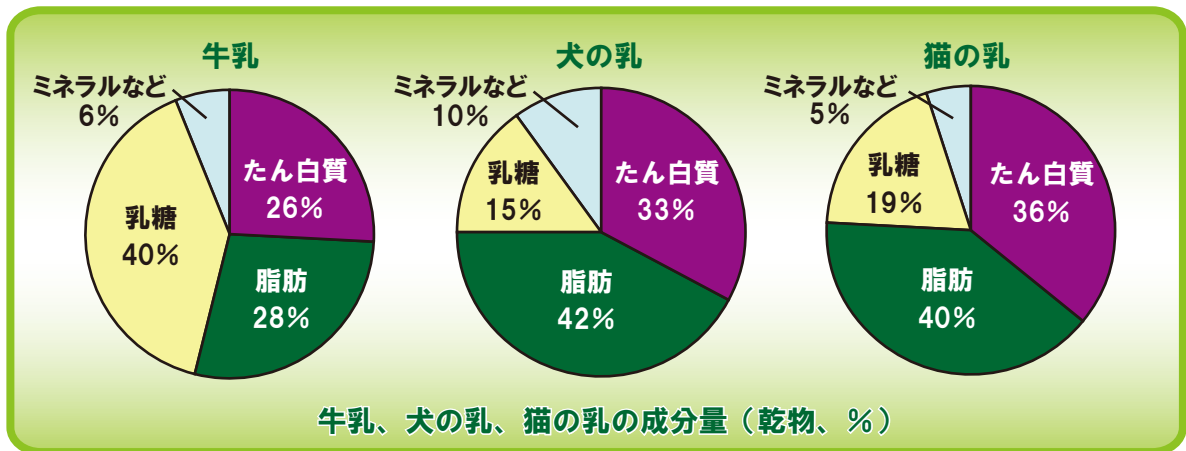


犬、猫、人間の平均的な食事に含まれる三大栄養素

## 乳の成分



犬や猫の食餌が、私たち人間と異なっていることは、乳の成分などにもあらわれています。牛乳は、私たちにとってたん白質やミネラルを多く含む良質な食品の一つですが、犬や猫の乳は牛乳に比べてたん白質や脂肪の量がより多く、乳糖などの炭水化物が少ないのが特徴です。このため、子犬や子猫に母乳の代わりに牛乳を与えると、エネルギー（カロリー）やたん白質が不足して、健全に成長できない場合があります。子犬や子猫には専用のミルクを与えましょう。



## 1-2 味覚の違い

●犬・猫は人間以上に塩分の摂りすぎに注意。犬は甘い物にも注意。

一般的に、犬や猫が1日に摂る食塩の量は人間の1/3程度でよいといわれています。このため、人間が普通に食べている惣菜やハム、ソーセージなどを与えてしまうと、知らない間に、塩分の摂取量が過剰となり、心臓や腎臓に負担をかけてしまうことになります。また、猫は食べ物の甘みを感じることが出来ませんが、犬は甘みのある食べ物が大好きなため、与えすぎると肥満の原因になります。

memo

### 塩分を多く含む食品の例

人間が1日に食べる量を基にした摂取塩分量

★~1.0g、★★1.1~2.0g、★★★2.1~3.0g、★★★★3.1~4.0g、★★★★★4.1g以上

パン (★)



ロースハム (★★)



ウインナー (★★)



さつま揚げ (★★★)



チーズ (★)



ベーコン (★★)



味噌汁 (★★)



しらす干し (★★★)



ハンペン (★★)



塩シャケ (★★★★★)



## 1-3 フードの食べ方の違いと与え方

●人間は1日3食。犬・猫は1日2～4食。

### 犬の場合



犬は、1回で1日分の量のフードを食べることが出来るほど大きい胃を持っていますが、1日分のフードを1回で与えるというやり方はあまり好ましくありません。与える回数が1日1回だけの場合は、慌てて飲み込んでのどに詰まらせたり、肥満になりやすいともいわれることから、成犬では1日分を2回に分けて与えましょう。また、子犬の場合は、1回に食べられる量が少ないため、4回程度に分けて与えましょう。

犬は、目の前にある食べ物をお腹一杯になるまで食べてしまいます。市販のペットフードの場合には、パッケージに表示してある給与量の目安を参考にして、犬の体重や健康状態にあわせて与える量を調節してください。また、新鮮な水を常にフードのそばに置いておきましょう。

### 猫の場合

猫は、昼夜を問わずに頻繁に少量ずつ食べる習性があるため、1日分を2～3回に分けて与えるか、腐敗の危険性が低いドライフードを置き餌として使って、いつでも食べることが出来るようにしてもよいでしょう。ただし、置き餌の場合でも、常に清潔で新鮮な状態にし、衛生を保つことが重要です。

水分の多いウエットフードや手づくりのフードなどは、そのまま放置しておくとう腐りやすいため、食べ残しはそのままにしないで、すぐ片付けましょう。



## 1-4 好きな食材・嫌いな食材

### 犬が好きな食材

鶏肉、牛肉、豚肉、羊肉（赤身、内臓、骨）



乳製品（チーズ、ミルク、ヨーグルト等）



卵



魚肉



果物（りんご、なし等）



甘い食べ物や塩辛いもの



焼いたものや蒸したもの（加工方法）

### 犬が嫌いな食材

柑橘類



ニオイが強い葉物野菜



香辛料



お酢など酸味の強いもの



### 猫が好きな食材

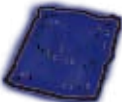
魚肉



かつおぶし



海苔



鶏肉、牛肉、豚肉、羊肉（赤身、内臓、骨）



柔らかいものや形状の小さなもの

### 猫が嫌いな食材

柑橘類



香辛料



お酢など酸味の強いもの



☆食べる、食べないには、食材だけでなく、水分の含有量、加熱、調理方法、口当たりなど様々な要因が関係します。

## 1-5 避けたい食材、注意が必要な食材

●人間の食べ物でも、犬や猫には害を及ぼす場合があります。タマネギやチョコレートなどを犬・猫に食べさせないように注意が必要です。

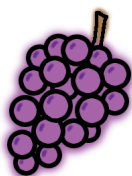
### 与えることは避けたいもの

#### タマネギ



犬や猫に有害なアリルプロピルジスルファイドという成分が含まれていて、大量に食べさせると赤血球が破壊され、血尿や下痢、嘔吐、発熱などをおこすおそれがあります。加熱してもこの成分は分解されず、ハンバーグやカレーなどのタマネギが含まれる加工食品も要注意です。また、タマネギそのものではなくても、エキスがしみ出た味噌汁やすきやきの煮汁などにも注意する必要があります。（同様の成分は、長ネギ、ニラ、ニンニクなどにも含まれています。）

#### ブドウ・干しブドウ



犬や猫にとって腎不全の原因になります。特に、ブドウの皮は与えてはいけません。

#### キシリトール入りのガムなど



キシリトールは、虫歯予防などに有効として人間用のガムなどのお菓子に含まれていますが、犬が誤って食べてしまうと、たとえ少量でも、血糖値の低下や嘔吐、肝不全などを起こすので注意が必要です。

#### 香辛料



犬・猫は、香辛料に対する耐性が低いので肝臓障害の症状を引き起こします。

#### 鶏の骨



鶏の骨は縦にさけやすく、鋭利な形状となり、のどや消化管を傷つけることがあるため、犬に与えるのは避けましょう。

## 注意が必要なもの、与えすぎないほうが良いもの

### イカ、タコなどの魚介類や カニ、エビなどの甲殻類



生の魚、イカやタコ、スルメなどは消化が悪いので、下痢や嘔吐の原因になったり、のどに詰まらせてしまうこともあります。また、生のイカや貝などの魚介類や、カニ、エビなどの甲殻類はビタミンB<sub>1</sub>を分解する酵素を持っているため、猫に与えると体内のビタミンB<sub>1</sub>が欠乏して後脚の麻痺をおこします。（加熱調理して与えれば問題はありません。）

### ホウレン草



シュウ酸が多く含まれているため、シュウ酸カルシウム尿石症の原因になります。茹でてアク抜きをすることで、シュウ酸の量を減らすことができます。

### 生の豆やナッツ類



消化が悪いので、下痢や嘔吐の原因になります。豆腐や納豆などの加工食品は消化不良の問題はありませんが、マグネシウムが多いため、結石になりやすいという説もあります。

### チョコレート



犬にチョコレートを与えると、テオブロミンが原因で嘔吐、下痢、発熱、けいれんの発作などを起こします。また、犬ほどではありませんが猫でも同様の症状をおこすことがあります。特に、室内飼育の場合には、買い置きチョコレートを部屋に放置しないよう注意が必要です。

### コーヒーや緑茶、紅茶など



カフェインが含まれているため、これらの飲料を与えると、犬や猫は、下痢、嘔吐、体温不調、多尿、尿失禁、テンカンの発作などをおこすことがあります。

### 生卵



アビジンという酵素が、皮膚炎、成長不良の症状を引き起こすことがあります。（加熱調理して与えれば問題はありません。）

### 砂糖



糖質吸収などのため、ビタミンB<sub>1</sub>やカルシウムが余分に使われ、ビタミンB<sub>1</sub>欠乏症やカルシウム不足の症状を引き起こすことがあります。

### にぼし、海苔



犬や猫には、マグネシウムの過剰が要因となり尿路疾患を引き起こすことがあります。

### 米飯



カロリーは十分に含まれていますが、ビタミン、ミネラルが少ないため、猫には、成長不良、肥満の症状を引き起こすことがあります。

### レバー



猫には、ビタミンA、Dの過剰が要因となり、食欲不振、関節炎を引き起こすことがあります。